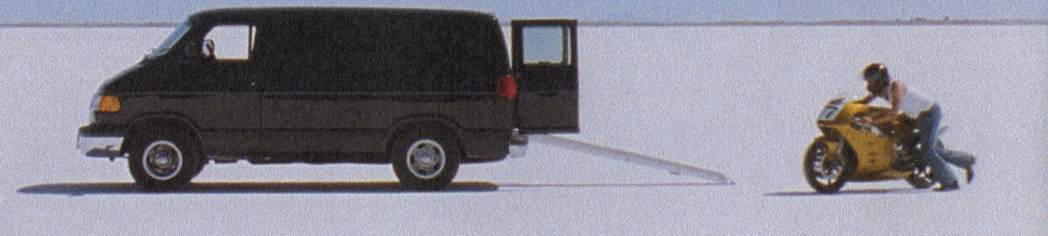


これは本当の意味でのロードムービーだ。映画と一緒に旅してほしい。  
——ヴィンセント・ギャロ



-  **SOUNDTRACK**  
『ブラウン・バニー』オリジナル・サウンドトラック  
(TULIP RECORDS) ¥2,800 (税別)
-  **NOVERISED BOOK**  
『ブラウン・バニー』  
(河出書房新社) ¥1,600 (税別)  
ヴィンセント・ギャロ=原作 清野栄一=著
-  **PHOTO BOOK**  
『the brown bunny』写真集  
(ロッキング・オン) ¥2,800 (税別)  
ヴィンセント・ギャロ=写真 中島英樹=装丁
-  **T-SHIRTS**  
ナンバーナイン・オリジナル・ブラウン・バニー・T-SHIRTS  
限定99枚 (公開初日、先着順) ¥8,000 (税別)
- RESTAURANT**  
『ブラウン・バニー』フェアー 12/12まで  
○『ブラウン・バニー』コロケ…¥800 ○『ブラウン・バニー』コース…¥5,800  
○『ブラウン・バニー』カクテル…¥900 ○『ブラウン・バニー』バナナクリームパイ…¥700  
Angelo Japanese 東京都港区北青山3-5-14 2F Tel: 03-3402-0303
- EXHIBITION**  
『ブラウン・バニー』Photo Exhibition 12/6~12/13  
Grey 東京都渋谷区神宮前3-22-6 館野ビル1F Tel: 03-5413-4447
- 『VINCENT GALLO ART PROJECT』**  
京都:浄土宗大本山・金戒光明寺(黒谷)に続き、12/13~1/25 東京:ピラミッドビル(田町)
- ART BOOK**  
『vincent gallo the complete works』  
12月発売 (キノティカ) 価格未定 限定1,111部

監督・脚本・編集・製作:ヴィンセント・ギャロ 主演:ヴィンセント・ギャロ、クロエ・セヴィニー 2003年/アメリカ映画/1時間33分/カラー/ヨーロッパ・ピスタ(1:1.66)/SRD  
提供:キネティック、レントラックジャパン、エレファント・ピクチャー、ジェネオン エンタテインメント、電通、葵プロモーション 配給:キネティック K I N É ■ ■ I Q U E www.brownbunny.net  
All Photos by Vincent Gallo ©2003 VINCENT GALLO and GRAY DAISY FILMS LLC All Rights Reserved.



『バッファロー'66』から5年、待望のヴィンセント・ギャロ監督・主演最新作、世界に先駆けついに日本公開!!  
主人公バド・クレイは250ccクラスのバイクレース。東海岸でのレースを終え、次のレース地カリフォルニアへ向けて出発する彼の心は、  
かつての恋人デージーへの想いで悲しみに満ちていた。その長い旅の終りには、今も変わらず愛し続けているデージーとの再会が待っていたが…。

11月22日(土)より 衝撃のロードショー!

渋谷公園通りバルコバート3前 <b>シネマライズ</b> 03-3464-0051 www.cinemarise.com 10:00   12:00   14:00   16:00   18:00   20:00	全国順次公開 12/6~名古屋シネプラザ 052-241-0936 12/20~札幌シアターキノ 011-231-9355 04年1/中旬~シネ・リール神戸 078-334-2126	12/6~名古屋シネプラザ 052-241-0936 12/下旬~仙台フォーラム 022-728-7866 04年1/下旬~松山シネマルナティック 089-933-9230	12/13~新潟シネウインド 025-243-5530 12/27~広島サロン・シネマ 082-241-1781 04年1/下旬~京都みなみ会館 075-661-3993	12/中旬~梅田ガーデンシネマ 06-6440-5977 04年1/中旬~シネテリエ天神 092-781-5508 金沢シネモンド 076-220-5007
---	--	--	---	--



SELECTION OFFICIELLE  
FESTIVAL DE CANNES

ラスト20分の愛の衝撃!!

永遠に語り継がれる傑作になると僕は信じている。  
ジョン・フルシアンテ  
(レッド・ホット・チリ・ペッパーズ)

KINÉTIQUE presents  
Vincent Gallo Chloë Sevigny

the brown bunny

ブラウン・バニー

written, directed, edited and produced by  
Vincent Gallo

希望の回復を求める魂が疾走する。  
もう一度あなたと生きたいと願う心が  
哀切きわまりない。

町田康 (作家)

息がきぬほど切実で壮大な、  
映像による追想自慰詩…  
奴の目の隈は、真実の愛の傷痕。  
中原昌也 (ミュージシャン・作家)

痛みや孤独を芸術に昇華し続けるギャロ。  
それは誰にも抱きしめてもらえないカミソリのような。  
Ed TSUWAKI (モード・イラストレーター)

リアリティーの追求。貫かれた物作りの背骨。  
目では泣かずに“心が泣く”。  
強さと弱さが同居する“雪の結晶”のような作品。  
おちまさ (プロデューサー)

なぜだろう。家路を急ぎ、眠りにしている家族達を  
そっと抱きしめた。そして涙が止まらなくなった。

中島英樹 (アートディレクター)

ギャロは描き、撮り、詠い、奏で、歌い、走り、作る。  
映画という名の形に自分の全てを注ぎ込んだ作品は  
音1つ、雲の色1つとってもギャロ印。マニア。  
野村訓市 (tripster)

砂漠の中、バイクを飛ばす彼の姿は、  
蜃気楼に包まれながら宙に飛び立つように見えた。  
彼はどこまで飛んで行くのだろう…。  
…セツナイ。

永瀬正敏 (俳優)

こんな風に愛されたい。例え男の頭がヘンでも。  
アバズレ女はこれ見て性格変えよう。  
乾貴美子 (タレント)

こんなにも女々しく個人的な映画は僕は大好きだ!!! でもさ…  
竹中直人 (俳優/映画監督)

果てしなく続くギャロの世界にあなたはついていけるだろうか。  
人生に取りつかれた映画です! (私はクロエのオッパイが好き!!)  
佐藤康恵 (女優)

ギャロへ、衝撃で席を立てませんでしたよ!  
ムスコは立ってたけど。素晴らしい映画をありがとう。  
荒川良々 (大人計画/俳優)

本当に自分が作りたい物を作る。とにかく自分だけを  
信じて作る。ヴィンセント・ギャロの男気を感じた。  
鈴木一真 (俳優)

愛と憎しみの小部屋でのクライマックス、  
ほとぼしる男の哀しみがあまりにもせつない。  
言葉を失うほどの名作だ。  
片寄明人 (Great3)

愛を疑った科で囚われているかのような男。  
フィルムに刻まれた愛の痛みに、ふるえるような時間—。  
園田恵子 (詩人)

人は本当にやりきれない時、視点なくたうつむく。  
うつむくしかない。信じるものが崩れるあの感じを  
見事にギャロはパッケージした。  
あのシーンを見て眉をひそめた連中は、  
私は排泄しませんと云ってるのと同じだ。  
日常のワンシーンであることを忘れないでほしい。  
SHIGEO (スケボーキング)



ここ5年間で観た映画の中で一番だ。  
クロエとヴィンセントの演技はグレート。  
ジム・ジャームッシュ (映画監督)

男の「めめしさ」を描かせるとヴィンセント・ギャロは天下一品だ。  
麻生香太郎 (エンタテインメント・ジャーナリスト)

人を愛し、愛す力。勇気を与える魂のこもった、  
ノンフィクション・ロードムービー  
富永よしえ (フォトグラファー)

T.REX『タンクス』を思わせるゴージャスな酩酊。  
それは移動でもあり停止でもある魂の道のり  
樋口泰人 (映画評論家)

妄想の中にこそ純愛はあるという究極のラブ・ストーリー。  
同時に見る者の性意識を露わにする映画だ。  
西谷真理子 (HF副編集長)

強いこだわりをもってフィルムに焼き付けられた  
光、色彩、質感が、どこか郷愁と悲しみに満ちた70年代の  
映画の空気を彷彿させる、心に突き刺さる傑作。  
佐藤久理子 (映画ジャーナリスト)

『バッファロー'66』よりずっといいよ!  
阿部和重 (小説家)

カンヌ国際映画祭開催中、  
「ギャロ、カンヌでブーイングを浴びる!」と報道された  
あの作品である。しかし、そんな評判はあてにしないで結構、  
これはラブ・ストーリーの傑作だ。  
浅川達也 (編集者/「ビクトアップ」#25より)

この鮮烈な映画を観て、私は、  
ヴィンセント・ギャロに会ってみたいと思った。そして、会えた!!  
南部虎弾 (電撃ネットワーク/パフォーマー)

どうしてぼくたちはあの愛の記憶を空しく抱えながら  
生きているのか? その理由がここにある。  
宮崎広司 (CUT編集長)

男にとっての「愛」の姿を、  
まるで標本のように完全保存した、衝撃的な映画。  
山崎洋一郎 (ロッキング・オン編集長)

男は本気、女は演技。すべての男はバドである。  
伊賀大介 (スタイリスト)

かくも弱いものだ。愛した女を引き摺り幻想し苦悩する日々。  
わかる! 男の本質が今作には見える。  
守谷聡 (SENSE編集長)



今もっともナイーブな“愛”の映画。  
あまりに切ない最後の瞬間、  
ギャロのすべてが愛しくなる。  
手塚真 (ヴィジュアルリスト)

男の人の純愛、嫉妬、やるせなさを  
切ないくらいに感じられる作品です。  
鮎河ナオミ (タレント)

何と言ってもラストシーン。すべてがつながります! どうかどうか秘密厳守で。  
永田未来 (ar編集部)

お前なんか大ッ嫌いだ! 死んじまえ!!  
とは決して言えない悲しい愛の物語。  
何に對してかは分からないが、悔しくなった。  
ヴィンセントは世界一マルチだ!  
SILVA (アーティスト)

背を少し丸めてうつむき加減に話す  
ギャロのナイーブな魅力は  
ジェームズ・ディーンを想起させる。  
平尾八寿子 (専門紙編集記者)

それは一人の男の意志…、血に染まり、乳白色で、感傷的な。  
『ブラウン・バニー』は、創造の種をあびせかける、  
全女性必見の映画体験だ。  
ギャスパール・ノエ (映画監督)

133,920枚の繊細で美しい写真集と言えるこの作品は、  
最後の一枚の為に、残りの133,919枚が存在している。  
石崎圭一 (アート・ディレクター)

3,000マイルを駆け抜けながら、哀しみの湖底に  
じっとうずくまる男。その静寂に目も耳も奪われる。  
太田直子 (字幕翻訳者)

監督本人が主演している映画で、その2つを  
切り離して観るのがこんなに難しい作品はないでしょう。  
カヒミ・カリィ (ミュージシャン)

これは本当に見事なまでの“私映画”。商業も芸術も  
超えたギャロの世界が濃密なまでに息づいている。  
立川直樹 (プロデューサー)

改めてヴィンセント・ギャロの  
美意識にど肝を抜かれた。  
これぞ映像美、ラストシーンも美しい。  
熊谷隆志 (レイク・タホ) (スタイリスト/フォトグラファー)

この映画についてあなたが語る言葉——それは他ならぬ  
あなた自身に向けられた言葉だということを忘れてはならない。  
表倉正樹 (ライター)

まさに「血の色をしたシネマ」!  
自作自演の極北型として歴史に大きな傷跡を残す作品。  
森直人 (映画批評家)

見ている最中、終わった直後、時を経てから…何度も反芻して  
「感じ」たくなる、そしてそのたびに違ったものが「見え」てくる映画。  
愛甲真美 (エディター)

シーンの一つ一つが今も頭から離れないでいる。  
初めてギャロの世界を理解し共感した。  
宮本敬文 (写真家)

男の女々しさを、『バッファロー'66』で得た人気を  
御破算にする覚悟で、とことん描いた怪作!  
川勝正幸 (エディター)

穏やかな 光のなかで なみだする  
たったひとつの 花を探して  
坂本美雨 (アーティスト)

心が空っぽになって、しばらく立ち上がれなかった。  
こんな情けない映画、みんな観た方がいい。  
安野ともこ (スタイリスト)



力強く、素晴らしいロードムービー。  
ヴィンセント・ギャロの車に乗って彼の傍らで  
アメリカ大陸を横断するなんて最高の体験だと思わない?  
私にとって、これはとても美しい愛の映画です。  
アニエス・ペー (デザイナー)

わが青春のアメリカン・ニューシネマ ライクで、繊細で、  
奇妙なデジャブ感のあるやるせない作品でありました。  
信藤三雄 (アート・ディレクター/映像ディレクター)

ギャロ、ギャロ、ギャロ。全編濡れた子犬のような  
ギャロの魅力が炸裂するギャロ映画の最高傑作。  
柳下毅一郎 (特殊翻訳家)

痛い、心臓につき刺さるほど痛かった。  
この深い悲しみ、この切なさ。  
自分とだぶらせてしまった。  
今年観た中で1番最高の映画だった。  
宮下貴裕 (NUMBER (N)INE デザイナー)

